

全国病児保育協議会のホームページ <http://www.byoujihoiku.ne.jp>

全国病児保育
協議会
広報委員会

病児保育協議会ニュース



= 今号の目次 = 第14回研究大会総会・特集

1頁 協議会メール

2頁 市民公開講座まとめ
基調講演まとめ

3頁 特別講演まとめ
第14回研究大会配布テキストの訂正

4頁 ステップアップ研修
「食物アレルギーと除去食」まとめ
「子どもの呼吸障害」まとめ
施設長研修まとめ

5頁 分科会報告
「遊びと環境」まとめ

「病児保育のニーズと問題点」まとめ

「保育・看護」まとめ

6頁 分科会報告

「保育所併設型セッション」まとめ

「なんでも相談」まとめ

7頁 ポスターセッション

「食事の工夫」まとめ

「自由テーマ1」まとめ

「自由テーマ2」まとめ

8頁 全国病児保育協議会新役員体制

別刷第33号で常任委員会・総会議事録掲載

協議会メール

第14回全国病児保育協議会研究大会(横浜)を終えて

第14回全国病児保育協議会研究大会会頭 井崎 和夫



真夏のヨコハマの2日間如何でしたでしょうか。持ち回りの研究大会と名と形を改め、開催

地で実行委員会・事務局を立ち上げ開催いたしました。平成12年入会の新人で、昨15年7月20日の総会で常任協議員を命ぜられ、重ねて翌年の研究大会の開催、しかも、すでに一年を切っている翌年の「海の日」の18・19日の連休というお話には最初は当惑しました。

医療から遠ざかり、組織力の無い私に出来ることかと不安になりました。会長・副会長・顧問・研修委員長の方々にご相談申し上げ、実行委員会を立ち上げました。委員の方は遠い横浜の地へ休日を返上して何度も手弁当でお集まり頂きました。厚くお礼申し上げます。

心配していました会場も、大阪から帰った翌日第2会場の研修センターを確保でき、その目の前の第1会場となりました音楽ホールも横浜市のご配慮で優先受け付け

して頂きラッキーでした。いろいろの形でご援助ご協力頂きました神奈川県医師会、横浜市医師会、神奈川区医師会、横浜市、横浜市社会福祉協議会に深甚なる謝意を表します。

「海の日」は明治天皇が東北巡幸を終えられ横浜に安着されたゆかりの日、ゆかりの地です。当日は横浜の「国際みなと祭り」の最終日です。今年も50万人の人出でした。

ヨコハマにペリー提督が来航(1854年)日米和親条約を締結、今年丁度150年目の節目の年です。病児保育が平成6年「乳幼児健康支援一時預かり事業」として国の施策となり、「エンゼルプラン」「新エンゼルプラン」に引き継がれて10年目のこの年にヨコハマに「病児保育」を向かえ、さらにヨコハマから発信することが出来たことは、昭和41年に「病児保育」を計画した、ヨコハマが好きで僕にとって38年前には想像出来なかったことで、こんなに嬉しいことはありません。大きな花火を打ち上げよう！と決心しました。

東日本に「病児・病後児保育施設」が増加して、関東地区でも研修会を開催しなければならない。特に「関東ブロック研修会」が2回開催されて感じておりました。その意味で、今回の執行部からのご指示は不安ながらも、好いチャンスでした。

もう一度「病児保育」を見直してみよう。2回に分け行っていた施設長・主任研修、スタッフ研修を合わせたもの。あらゆる角度から「病児保育」を取り上げよう。そして、明日から役に立つ第1線のスタッフのためにと企画しました。講座も、感染症、アレルギー、呼吸それに実技として心肺蘇生法も加えてみました。欲張りすぎて、時間が足りなくなりました。分科会も会員各位から沢山の演題が寄せられ、活発な議論がなされました。初めての試みの「ポスターセッション」も好評でした。講師・座長をお引き受け頂いた先生方有難うございました。

凡そ700名と言うはるかに予想を上回る参加者に不便で手狭な会場、不行き届き多数ございましたことをお詫び申し上げます。

市民公開講座まとめ

「横浜市の子育て支援策と病後児保育」

講師：横浜市子育て支援事業本部

本部長 鈴木 隆氏

座長：社会福祉法人久遠園

常務理事 福澤 邦康



研究大会総会の横浜市民公開講座は、横浜市子育て支援事業本部長の鈴木隆氏を講師にむか

講師の鈴木氏

えて行われました。

内容は、「さまざまな就労形態や家庭の状況に対応した家庭を支える多様な子育て支援サービスの充実」などを横浜の課題として提示しながら

子育てを巡る状況
子育て施策の変遷
子どもの悲惨な事件原因と少子化の原因
子育て支援施策の課題
横浜の病児保育について
などが中心となり、親切で分かりやすい講演でした。

今回は多数の市民参加があり、質疑応答では「エンジェルプランから次世代育成プランへの移行と展望について」「実働的な子育て総合拠点、窓口設置要望」「病児

保育の予算整備」「医師会、医療施設、行政の連携強化」「近隣市町村との利用連携」など市民からも活発な意見、要望が出されました。

病児保育の抱える問題点を市民の視点から挙げるとともに横浜市における病児保育認知の拡大、今後の方向性の提示にもつながったと実感しております。

横浜市子育て支援事業本部長の鈴木隆氏にお礼を申し上げたいと思います。

また、第14回研究大会事務局長として不手際な点が多々ありながらも無事に大会を終了できましたのは、関係者の皆様方のご協力とご支援の賜物と思っております。深くお礼を申し上げます。

基調講演まとめ

「病児・病後児保育の課題と問題点」

講師：ほあし子どものこころクリニック

院長 帆足 英一先生

座長：エンゼル多摩

施設長 池田 奈緒子



分かりやすい丁寧なご説明で毎回絶大なる人気の帆足先生の講義は、今年も広い会場満席の中で開かれました。

協議会の歴史や現況の説明の後、配置人数の重要性についてのお話があり、保育所の3.5倍という手厚い職員配置は、それを生かせる保育と看護が合体した「保育看護」という専門性が重要であり、発達・生理・疾患理解・養護・保健・保育技術・心理などに対する理解を説かれました。

対象児についての説明の中では、「病気回復期とは何か」にもふれられ、改めて日ごろの保育看護を見つめ直しました。また「保育所型」の病後児保育の問題点・注意すべき点などでは、医療機関

併設型・単独型でも再確認すべきことが多く説明され、会場中身が引き締まる思いでした。

専門性の向上については、「日々積み重ねていくしかないこと。目の前に対象があるということから、専門性は当然向上するはずであり、忙しいという言葉は意識の低さである。」というお言葉を心に深く止めました。

また、補助金制度の全面的見直しについて、まず何らかの事業の付帯事業として始まったものがほとんどだが、独立した事業としても採算が取れるようにならなければならないこと。利用者が1000人を超えると固定補助ではなくるので、補助金の増額が必要であること。嘱託医手当が明確ではないこと。などの説明がありました。

不採算事業から採算事業に転換することによって、真の「子育て支援」「健康支援事業」として地

域においての発展・定着が可能となり、協議会としての問題・課題は、「専門性」「リスクマネジメント」「経営」であることを説明されました。

来年は節目の年であり、国の施策である全国500箇所を達成した後の更なる目標は何なのか、それに対して、協議会としての、各施設としての、働く職員一人ひとりの、課題は何かを改めて考え、それぞれの立場でできるだけのことをしていきたいと、真に思う講義でした。



大盛況の開会当日の受付

特別講演まとめ

「子どもと感染症」

講師：横浜市立大学大学院発生生育小児医療学
教授 横田 俊平先生

座長：全国病児保育協議会

会長 藤本 保



横田先生は子どもの感染症および免疫学の大家であり、病児保育では最も重要な問題である

感染症の話を、病原体の種類から始まりどうして感染が成立するのか、そして、感染症にはどう対処すればよいのかということを知りやすく講演していただきました。その要旨を講演していただいた順に簡単に記します。

- 1) 感染症とはどういう病気か？
外から体に入ってくる病原体によって起こる病気。
- 2) 感染症を引き起こす病原体
細菌、ウイルス、真菌、リケッチア、マイコプラズマ、寄生虫や狂牛病を起こすプリオンもある。
- 3) 免疫系について
外から体に異物が入ってくるのを防ぐ働き・・・感染因子に体が負けると発症する。
- 4) 免疫系には二つのシステムがある
獲得免疫・・・特異的抗原認識 ハシカにかかれば、ハシカには二度とつかない。しかし、風疹にはかかる)
自然免疫・・・パターン認識 (生まれたばかりの赤ちゃんは特異的免疫はまだできていないが、感染

により全て死んでしまうわけではない。細菌の膜成分やウイルスの核酸を認識してそれらをやっつけようとする持って生まれた防禦力がある。)

5) ウイルス感染症を中心に話す
疫病の説明があり、過去の流行の病気とそれが現在どのようになっているかについてスライドによる詳細な話があった。

感染症サーベイランスが非常に有用な情報を我々に教えてくれるという説明で、種々のウイルス性疾患の流行状況が示された。

現代の疫病ということで、トリインフルエンザの話があった。・・・トリのインフルエンザがヒトに感染するようになるのはブタを仲介役とし、ヒト型のウイルスとトリ型のウイルスがブタの体の中であいの子ウイルス(ハイブリッド)を作ってヒトへ感染するようになる。

ヒトには免疫がないため、これが流行すると大流行となり疫病化するという説明で、香港での流行、今年の山口・大分・京都でのトリの大量死の話があった。

6) 日常的な子どものウイルス感染症

突発性発疹症、手足口病、麻疹、風疹、水痘・帯状疱疹、単純ヘルペスウイルス感染症、ムンプス、伝染性紅斑、インフルエンザ、ウ

イルス性肝炎などについて、疫学的特徴、症状と病態、合併症、治療と予防法がスライドを使って説明された。

7) 感染症の予防対策

わが国の予防接種の歴史から説明し、予防接種が始まってジフテリア、ポリオなどの病気の流行が阻止されたことを示した。

そして、予防接種率が60%以下だと全国的な流行が続き、70%前後になると地域的流行にとどめ、90%以上になると流行が阻止されるので、予防接種の勧奨をすべきであると説明があった。

また、予防接種の問題点として、麻疹・風疹は接種率が低く、はしかの輸出国と言われる不名誉や、風疹では17～25歳の間で感受性者が多く、先天風疹症候群の赤ちゃんが生まれてくる危険が高いことなどの話、b型インフルエンザ菌や髄膜炎菌の予防接種がまだ実施されていないことなどの話もあった。

今回この講演を聞いた方々は非常に良かったと思っていることでしょう。このような講演は何度も企画され、繰り返して聞く必要があると感じました。



第14回研究会配布 テキストの訂正について

基礎研修「保育士のための看護講座」のレジュメに誤りがございました。
右記のごとく、訂正をお願いいたします。

- (1) 適切な濃度の消毒液をつくる
- (例) 10%ハイアミン原液から 0.1%

ハイアミン溶液2リットルを作るには、

$$\frac{0.1 \times 2000}{10} = 20$$

ハイアミン液20ml + 水1980mlとなる。

$$2000 - 20 = 1980$$

ステップアップ研修まとめ

.....「食物アレルギーと除去食」.....

講師：神奈川県立こども医療センター

アレルギー科長 栗原 和幸先生

座長：宇治病院乳幼児健康支援サービスセンター

施設長 松本 良文



今年度のステップアップ研修は神奈川県立こども医療センターアレルギー科長 栗原和幸先生に『食物アレルギーと除去食』というテーマでご講演いただきました。最近、何かと話題のテーマでしたので、参加者の関心も高く、朝

早くからの講演にもかかわらず多数方々に参加をしていただきました。栗原先生からは大変わかりやすいお話をしていただき、参加者はずいぶん勉強になったと思います。

特に『アナフィラキシー』についての話は参加者一同、より一層の注意を喚起させられ、思いを新たにすところでした。また、アレルギー出現時の対応などは、保

育所併設型施設にとっては大変参考になったと思います。現場ではまだまだ対応に混乱があるようですが、栗原先生から明確にアドバイスしていただきました。

また質疑応答も活発で時間が全く足りないくらいでした。来年度もこのような活気あるステップアップ研修を実施していただきたいと思います。



ステップアップ研修まとめ

.....「子どもの呼吸障害」.....

講師：神奈川県立こども医療センター

救急診療科長 梅原 実先生

座長：八尾徳州会総合病院

小児科医長 神原 雪子



今回より、ステップアップ研修として新たに講義が設けられ、2日目に上記の題にて神奈川県立こども医療センター救急診療科の梅原実先生にご講演いただきました。大勢の方が聴講してくださり、会場はあふれんばかりの盛況ぶりでした。

先生は長く臨床にたずさわっておられ、小児医療の最前線で活躍されている方でありま

す。その豊富な知識と経験から、ポイントをおさえて、しかもわかりやすく教えていただきました。

小児の呼吸器の特徴(気道が狭く、閉塞しやすいなど)やチアノゼ・陥没呼吸・喘鳴・鼻翼呼吸など注意すべき呼吸器症状、チェックポイントとして、活気があるか・食欲はあるか・機嫌・顔色がいいかをよく観察することなどをおっしゃっておられました。

呼吸器疾患、気管支喘息、気道異物、誤飲、心肺停止の救急処置

など多岐にわたり、ビデオなどをまじえて教えていただきました。

病児を預かる私たちにとって、呼吸器症状は日々よく接するものであり、時には命にかかわるものです。この講義はわかりやすく、すぐに役にたつ、すばらしい内容であったと私は感激いたしました。皆様もこの内容を思い返し、よりよい病児保育の実践のためにいかしていただきたいと思います。



施設長研修

—「病児保育のあり方を問う」—

座長：みなみクリニック

院長 南 武嗣

病児保育の新しい試み

NPO法人フローレンスの駒崎弘樹さんは、公的支援が不十分なため思ったほど広がらない病児保育を、開所しやすく

する試みについて発表した。

開所スペースに関しては、マンションのコミュニティスペースや商店街空き店舗の利用、対象者への宣伝には法人や会社への働きか

け、保育の実務面では統一的なマニュアル作成などをあげた。地域病児ケアシステム

こどもケアハウスぞうさんの水谷時子さんは、保育人数の変動や職員の突発的な休暇に対応し、職員配置の再検討、デイケア、事業所内保育、外来助手などの保育士の病児保育以外の兼務、地域の育児サポーターとの連携などの工夫について発表

した。
ISO9001と病児保育室
あすか病児保育室の大成
みゆきさんは、顧客満足度の
向上とリスクマネジメント
を目的とするISO9001の取

得の途中経過について発表し
た。保育、文書作成、ヒヤリ
ハットのマニュアルの作成、職員
のミーティング、新人教育におい
て有効であった。
いずれも今後の病児保育の方

向性について示唆に富んだ発表で
あった。



▶▶▶▶▶ **分科会報告** ◀◀◀◀◀

■ 「遊びと環境」 ■

座長：ききょう保育園「ひまわり」

園長 山田 静子

C分科会は、病児保育室4カ所、
病後児保育室2カ所から発表があ
りました。
発表内容で共通していたのは、
入室時の不安があること。異年
令の生活になることで、思わぬ保

育面のよさがあることなど、参加
者に共通の話題が提供された一方
で、「え？ 病時保育ですごい造
型活動をしているんだ！」と廃材
利用の発表に感心させられたり、
日々利用者の違う保育室にデイ

リープログラムを活用した保育計
画づくりの困難さを通して、一対
一、一対二のていねいでやさしい
保育の大事さを改めて実感したと
いう発表もありました。

病児、病後児保育は室内で安静
にしながらの保育活動ですから、
自由遊びや設定遊びも少人数で家
庭的に遊べ、何より保育者を独占
してスキンシップをはかれるとこ
ろにそのよさがあると思います。

■ 「病児保育のニーズと問題点」 ■

座長：みやた小児科ぼけっと病児保育室

保育士 島村 恵美子

助言者にほあし子どものこころ
クリニックの副院長、帆足暁子先
生を迎え総数約80名の参加、5

名の発表者による発題をもとに進
めていきました。
まず1題目の時間延長の必要性
については、個々の抱えている問
題が表面化されると共に、地域に
密着したやりかたが大事であるこ
とが出されました。次に保育所併
設型における保健指導の必要性で
は、利用者を増やしていくため
にも、施設の性質を知ってもらい保
護者の理解を高めること、広報活
動の大切さが話されました。
3題目、医療機関併設型の7年
間の検討では、利用者の季節的変

動に伴うスタッフの変動の大変さ
や、隔離室が複数あるが故の保育
の問題点が投げかけられました。

4題目の利用者以外も対象に
したアンケートでは、各施設参考
になるものが多く、利用者のアン
ケートを全国的にまとめられない
かという提案が出されました。

5題目は子どもの声を聞くアン
ケートより、保育室で過ごした
ことが楽しかったという声がか
れ、私達保育室スタッフの励みと
なりました。

最終的にもう一度各施設で問題
点を明確にすると共に、地域に密
着しニーズにあったやり方をそれ
ぞれの施設が、工夫して前向き
にとりこんでいくことが大事である
確認をして終わりとなりました。



ポスターセッションの1コマ

■ 「保育・看護」 ■

座長：まなこどもクリニック

院長 原木 真名

分科会Eは、予想を上回る参加
者で座る席のない参加者もい
らっしゃる中、熱気に包まれて始
まりました。
最初の演題は、千葉市の佐藤さ
ん(バンビーノ)の<デイリープ
ログラムに基づいた保育看護のポ
イント>。詳細なデイリープログ
ラムに基づいて、行なわれている
保育看護の様子についてお話し
いただきました。

2番目の演題は、青森県の竹内
さん(ことりの森)の<保育看護
計画について>。基本方針に基づ
いて、重症度に応じた保育看護計
画を行っている、看護的、保育的、
育児支援的なアプローチを行っ
ていることなどのお話をいただき
ました。
3番目の演題は、横浜の石川
さん(第二福澤保育センター)の
<病後児保育室における問題点と



今後の課題について>。医師との
連絡の問題やこどもの状態把握
の問題などについてお話があり
ました。

4番目の演題は大阪の丸尾さん

(八尾徳州会総合病院)の<入院になった症例の検討>について。症例の紹介や、保育上の反省点などについての御発表でした。

5番目の演題は千葉市の中山さん(バンビーノ)の<急変時の医師との連携>について。事例と、

医師、保育士と看護師の連携などについての御発表でした。

討論では、医師との連携、保護者への連絡や情報の共有、病児保育室で行う育児支援、保育看護、などが焦点となりました。

各施設とも、それぞれの特性を

生かして、それぞれ理想の保育看護を模索している様子がかがわれました。保育看護を形にしているという取り組みが、各地で地道に行われていることをとても心強く感じました。

「保育所併設型セッション」

座長：陸町保育園

園長 遠山 法子

「ひよこのいえ利用のしおり」子育て支援としての病(後)児保育の必要性とあり方を実践から報告していただきました。利用者にとっての利便性のみならず、安全性を考えることは病(後)児保育



を継続していく上でとても大切なことと思いました。

「保育士のストレス」関心を持って参加された方が多かった演題です。ストレスの要因を4つに絞っての検証と対策。会場からも要因を逆手の発想で、プラス思考をしてはとのアドバイスがありました。

「病後児保育マニュアル作成の基本的考え方」横浜市病後児保育協議会加入9施設の均質性を保つ為にマニュアル作成にいたった経緯の説明がありました。3つのポイントに絞った内容(規則・疾

患の観察留意・併設のメリット)で作成中。こちら会場から、今後是非参考にさせて欲しいという声が上がっていました。

「病後児保育の実際」質の高い保育をし、利用頻度の高い保育室ならでの丁寧な報告でした。キャンセル等による人員配置の難しさは今も解消されないとのことで病後児保育室共通の課題だと思えます。

演題発表のあと参加者全員にマイクを回しお一人づつ発言をしていただき、多様な課題をかかえている参加者の皆さんのお話も伺う事ができました。会終了後、連絡先交換をされている姿もみられ、これも協議会の良いところだと思っています。

「フリーセッション」-なんでも相談-

座長：むかいだ小児科キッズハウス

院長 向田 隆通

病児保育協議会の研修会・研究大会も14回目を数えました。

しかし、毎年新たな施設の加入も多く、今回の研究大会の参加も700人近かったと聞いております。「何でも相談」は参加者は20人程度とそう多くはないものの、今から始めようとしている方、最近始めた施設の職員等、参加された方はたくさんの具体的な疑問、質問を持って来ておられて、

活発な意見交換がなされました。受け入れ児の制限の有無(発熱



患者の是非、麻しん、その他感染症時、予防接種未施行児等)キャンセル(無断キャンセルと取り扱い、キャンセル待ちについて等)、従業員の勤務形態、料金(延長料金、減免)、複数の市町村での利用、保険、医師不在について、座薬等の医薬品の使用・保険診療について、近隣の医療機関・かかりつけ医・園医等との連携等、多岐について活発な意見交換がありました。

いつも思うことではありますが、全ての病児保育を希望している児がこの制度の恩恵を受けられるようになって欲しいものです。

分科会報告

ポスターセッション「食事の工夫」

座長：エンゼル多摩

保育士 犬飼 恵子

ポスターセッション1「食事の工夫」は、分科会と平行した時間設定にもかかわらず、大勢の参加があり、演者の皆さ

んのご協力のもと大盛況のうちに終えることができました。

病(後)児保育室においての「食事の提供」は、大変奥が深い



分野です。さまざまな問題も抱え

ており、適切な食事提供を行うために全国の施設で試行錯誤を繰り返している現状の中、今回発題のあった5施設の取り組みは参考になる点が多々ありました。

どの発表も今後につながる有意義な内容で、各ポスターの前では活発な質疑応答がなされ、皆の関心の高さが窺われました。今回のように、いろいろな視点から「食事」についての情報交換ができる機会はこれまでなかったのではない

でしょうか。病(後)児保育室での「食事」の質を高めるため、今後もこのような場が多く持てることを願っております。

発題「病後児保育室の食事形態について」からまつ保育園 福元靖子先生、「加工食品を使った食事提供の工夫」ふじわら医院 小田真理子先生、「病状に合わせた食事の工夫」わかば病児保育所 吉永眞須美先生、「病児保育室におけるレトルト食品の利

用」病児保育室ことりの森、赤平幸子先生、「体調が悪いときに提供したいおやつ」第二福澤保育センター、武士俣ちづる先生 ありがとうございます。



ポスターセッション「自由テーマ1」

座長：光洋台中央福澤保育センター病後児保育室「ひまわり」

室長 松崎 恵美子

「自由な形での意見交換を。」という目的で設けられた、今回のポスターセッション。自由テーマ1では「ヒヤリハット事例とその対策」「感染対策」「建築計画に関する研究」「主任研修マニュアル」がテーマとして挙げられました。

どのテーマも大変興味深く、身近な問題として常に考えていかなければならない課題でした。

「ヒヤリハット」「感染対策」「建築計画」は実は“子どもの安全を

守る”という点に於いて、共通するテーマでポスターの前で各演者たちが意見をかわし、それぞれの



施設に助言している姿はとても印象的でした。

また、「主任研修マニュアル」では、主任担当者としての仕事の紹介と共に、主任としての心得を話していただき「職員が楽しいと感じながら業務を行う事が大切でそこからスタッフのチームワークや、保護者や子ども達に対するやさしさが生まれる」という言葉に皆さん深く共感されていました。

今回、発表形式、場所等の問題は残りましたが、当初の「自由な形での意見交換を。」という目的は達成されたように思います。

今後の研修会に於いても期待したいと思います。

ポスターセッション「自由テーマ2」

座長：きらら保育園

園長 森田 倫代

初めての試みであるポスターセッションでしたが、時間前から掲示物を見ている人も多く、説明後はそれぞれ興味を持ったポスターの前で積極的に質問や意見を交わしている姿が見受けられました。その場で気軽に質問や話し合いができるのが魅力です。

自由テーマ2では広報委員の小田文江さんから各ブロックからの活動についての資料が出展されました。他のブロックでの積極的な活動をかいま見ることができ、今後のブロック活動をどのようにやっていくかの参考になったようです。しかし、どの資料もボリュームがありゆっくり読むことが出来なかったのが残念でした。

また、ふじわら医院病児保育室 わんぱくの森、ベアーズデイサービスセンターからは保育日誌につ

いての発題がありました。実際使用している保育日誌を紹介し、目的や特徴、問題点などが発表されました。具体的な問題点や工夫点、その後の改善点などの説明がありました。入所児童が多いときは記録に時間がかかり負担になることもあるようですが、保護者の方には一日に様子がよくわかり喜ばれているとのこと。家での看護のアドバイスなど、その後同じような病気になったときの看護の参考にしているという方もいるそうです。それぞれの園で保護者の方の声を参考にわかりやすい保育日誌を目指して研究を重ねています。どちらも、家庭との重要な架け橋になっています。

ふじわら医院病児保育室 わんぱくの森では新任保育士が保育日誌が充分、家族に活用されている

かと問題意識を持ち保護者の方へのアンケートをとったという報告がありました。ほとんどの方はよく読んでおり、7割の方はわかりやすいとの結果が得られたようです。子どもの保育中の様子を知ることはもちろんですが、病気の症状に関する説明はその後の同じような病気の時の看護に役立っているという話もありました。

質問をされる中から日誌の用紙をほしいという方が多く、コピーしていただきました。どこの病児保育室でも保育日誌をつけているのでしょうか、自分の施設と比較したり、見直したりいう機会になったのではないのでしょうか。



楽しい懇親会での中国獅子舞

全国病児保育協議会新役員体制

会 長	藤本 保	大分県	大分こども病院キッズケアールーム
副 会 長	青木 佳之	岡山県	青木内科小児科医院内山陽ちびっこ療育園
	木野 稔	大阪府	中野こども病院病児保育室きしゃぼっぼ
	宮田 章子	東京都	みやた小児科ぽけっと病児保育室
顧 問	中野 博光	大阪府	中野こども病院病児保育室きしゃぼっぼ
	帆足 英一	東京都	ほあし子どものこころクリニック
監 事	井崎 和夫	神奈川県	社会福祉法人あおぞら あおぞら病後児保育室さくらんぼ
	向田 隆通	愛媛県	むかいだ小児科キッズハウス
常任協議員	青木 佳之	岡山県	青木内科小児科医院内山陽ちびっこ療育園
	池田奈緒子	神奈川県	エンゼル多摩
	木野 稔	大阪府	中野こども病院病児保育室きしゃぼっぼ
	高崎 好生	福岡県	高崎小児科内福岡市西部病児デイケアールームおもちゃばこ
	二宮 剛美	三重県	二宮病院四日市市病児保育室カンガルーム
	野澤 良美	東京都	狛江すこやか病児保育室
	日高 伸一	宮崎県	ひよこ保育園
	平田ルリ子	福岡県	清心乳児園子育て支援センターキッズランド
	深谷 憲一	福井県	ひかり病児保育園
	福富 悌	岐阜県	福富医院
	藤本 保	大分県	大分こども病院キッズケアールーム
	前田 敏子	愛知県	コスモスこどもクリニックなずな病児保育室
	増田 宏	広島県	ますだ小児科内病児保育室バンビ
	松本 良文	京都府	宇治病院乳幼児健康支援サービスセンター
	南 武嗣	鹿児島県	みなみクリニック病児保育室ダーク・ヘム
	宮田 章子	東京都	みやた小児科ぽけっと病児保育室
	山田 静子	東京都	ききょう保育園病後児保育室ひまわり
	委嘱協議員・ 委嘱常任協議員	赤平 幸子	青森県
小田 文江		大阪府	すみれ乳児院すみれこどもケアルーム
庄司 順一		東京都	青山学院大学文学部教育学科
野原八千代		千葉県	聖徳大学短期大学部保育科
藤本 文孝		大阪府	株式会社関西共同印刷所
	帆足 暁子	東京都	ほあし子どものこころクリニック
総務委員長	藤本 保	大分県	大分こども病院キッズケアールーム
調査研究委員長	深谷 憲一	福井県	ひかり病児保育園
研修委員長	木野 稔	大阪府	中野こども病院病児保育室きしゃぼっぼ
広報委員長	藤本 文孝	大阪府	株式会社関西共同印刷所
名誉会長	保坂 智子	大阪府	枚方病児保育室

全国病児保育協議会事務局

〒870-0943 大分県大分市大字片島 83-7 大分こども病院気付

電話：097-567-0050(代表) FAX：097-568-2970

担当：伊東 美紀



全国病児保育協議会 常任協議員会 議事録

と き：平成16年7月17日(土)18:00~20:00

と ころ：ウイリング横浜

(1) 会長挨拶

(2) 議長選出

向田隆通氏が選出された。

(3) 議事録署名人(2名)選出

深谷憲一氏、松本良文氏が選出された。

(4) 報告事項

1) 第14回全国病児保育研究大会 井崎和夫会長より

1. 第14回全国病児保育研究大会について

実行委員会の皆様に助けられて、今回開催することができた。参加人数は約650名となった。参加費・協賛金などの収入より、収支も問題なかった。(資料：収支・参加者名簿)

2) 研修委員会(二宮剛美研修委員長より)

1. 新研修委員会メンバーについて

木野 稔 委員長

二宮 剛美 副委員長

池田奈緒子 副委員長

赤平 幸子 委員

高崎 好生 委員

福富 悌 委員

2. 新研修委員会予算について

平成16年度事業計画より、委員会を年5回開催し、岡山研修会の視察にも行く予定としている。そこで、委員の旅費等を考え、研修委員会予算を従来の200,000円から300,000円へ増額していただきたい。

【決定】

研修委員会平成16年度予算を300,000円とする。

3.6月20日 名古屋市で研修委員会開催した。8名が出席した。協議事項は以下のとおり。

14回研究大会用のアンケートは見送り、全会員用のアンケートについて今後検討する。

研究大会では、研修委員は臨機応変に大会進行に協力することを確認した。

横浜実行委員会および事務局から岡山関係者へ実務引継ぎの報告書作成をお願いする。

研究大会主催者側に立ち考え、大阪大会の次の開催地を常任協議員会に早急に検討していただきたい。

なるべく早めに開催地を決めるべき。地元もサポートしやすい。

基礎研修・生涯研修テキストについて

第14回研究大会での小冊子作成は見送る。

検討課題として、受講証の有効利用法も考慮しながら、基礎研修、生涯教育項目を整理する。

基礎研修の総論、保育士および看護師用について。

今後の研究大会主催者への研修委員会からの要求項目として、基礎研修、行政説明、基調講演あるいは教育講演、特別講演などは必ず入れていただく。

その他について、さらに研修委員会で検討する。

協議事項

1) 研修委員会と研究大会実行委員会の役割について

帆足暎子氏より

今回の研究大会では実行委員会と研修委員会の区別が明確でなく、混乱が生じた部分がある。

帆足英一氏より

研修委員会は生涯研修(基礎研修・ステップアップ研修・施設長への研修)の内容を整理することが大きな役割。

研究大会は、「研修会が企画するプログラム+会頭の色をだしたプログラム」の2本立てとするよ。

2) テキスト(小冊子)発行について

二宮委員長より

テキスト(小冊子)の発行について。マニュアルと内容が重なってしまうのではないか。

内容についても、講師の先生方のご意見をいただきたい。

帆足英一氏より

今回の抄録集をみると、タイトルしか記載されていない講演もある。やはり、良い講演は研究大会に参加できなかった方たちのためにも、今後残していった方がよい。すべて作らなければならないというわけではない。

3) 研究大会開催日程について。

7月の海の日の連休の開催を決めているが、「子どもの心相談医研修会」と重なるため、日程を変更しなければならないか?

【決定】

平成17年度(岡山)、平成18年度(大阪)は従来どおり7月海の日の連休で開催する。平成19年度以降については再度検討する。

4) 学生の研究大会参加費について

学生の取り扱いをどうするべきか?

帆足暎子氏より

研究大会は加盟施設のためのもので、学生には広報していない。また、参加費無料ということで学生が多く参加し分科会などに殺到した場合、会員の権利が守られない。学生の取り扱いは慎重にするべき。お金を払うことで意識を向上できるということがあるので、無料には反対。

小田文江氏より

学生は病児保育のことを何も知らずに参加することが多い。学生を含めた「病児保育とは?」というコーナーを作って、参加してもらってはどうか?

藤本会長より

学生を地域ブロック研修会に参加させてあげてはどうか。

【決定】

学生の参加費については会頭に一任する。しかし無料とはしない。

5) 協議会予算の研究大会補助金1,000,000円の額は妥当か?

会長より

研究大会補助金1,000,000円の根拠は、例年の研究大会の収支より協議会会費から補填しなければならない額が約1,000,000円であったため。今後研究大会運営が困難になるようであれば増額するべき。

3) 調査研究委員会(平田ルリ子委員長より)

1. 事業報告・計画案について

平成15年度事業報告

「病(後)児保育施設実態調査」の全国調査

研究大会時(平成16年7月19日)に宮田副会長より報告をしていただく。

「疾病別利用期間調査」サンプリング調査

各形態別12施設にお願いして9施設お返事をいただいた。1年間述べ件数約4800件。マニュアル改訂の資料として使用する。また、協力してくれた施設にも調査結果を報告する。

「平成14年度病児保育事業稼働実績調査」
毎年行っている。回収率も非常によく、皆様に協力的に
いただいている。研究大会後に報告する。

平成16年度事業計画

入室状況調査を行う。
疾患別利用期間調査の結果を、マニュアル改訂に向けて手を
加える。
年間1000名以上利用の施設の経営状況を調査する。厚生労働
省に陳情する際にデータで示すことができるような調査と
する。
利用者数の季節変動については、稼働実績調査で分析・検討
する。

2. 次年度体制について

調査研究委員会新委員長・副委員長
深谷 憲一 委員長
平田ルリ子 副委員長
松本 良文 副委員長

4) 広報委員会(藤本文孝委員長より)

1. 平成15年度事業報告・平成16年度事業計画

平成15年度事業報告

4回のニュースの発行「第27・28・29・30号」ニュースの
年5回発行が、原稿の到着遅れと編集作業の遅れで4回しか
発行できなかった。
16年度は必ず5回発行を遵守します。
ポスターの発行 36施設利用(A3サイズ926枚・A4
サイズ480枚)
100,000円の利益となった。
ホームページの更新 月1回をめぐりに更新
広報委員会の開催 平成16年2月

平成16年度事業計画

年5回のニュースの発行(内1回は総会・研修会特集号)
6月、8月、9月、12月、3月の5回発行する。

二宮剛美氏より

協議会ニュースが分かりやすいと好評である。MLの情報を
ニュースに載せてはどうか?

藤本委員長より

連載など、ニュースをみて学習できる内容としていきたい。
病児保育ポスター(リニューアル版)の作成=作成済み
既に各施設に見本を送り、注文がきている。ポスターの一番
下に研究大会の案内を入れ、会が終わったら切り取って使用
できるようにしている。

HPの拡充

- ・「病児保育とは」を作成
- ・加盟施設数を掲載する
- ・「入会のご案内」の掲載 「入会のしおり」を使用
- ・関連の学会の情報・各ブロックや都道府県段階での取組の
紹介
- ・メールマガジンの発行を模索
HPのメールアドレスは現在向田氏のメールアドレスと
なっている。今後どうするかは向田氏と広報委員会
で協議する。

2. 新体制について

帆足暁子・池田奈緒子の両氏はそれぞれ調査研究委員会・研
修委員会へ異動。

5) 総務委員会(宮田章子委員長より)

1. 平成15年度決算報告・平成16年度予算(案)について

予算案の「総会・研修会運営費」は「研究大会補助金」に
変更する。
総会の会場費は、基本的に研究大会補助金から支出する。多
額の場合は総務委員会費から支出する。

【決定】

平成15年度決算報告・平成16年度予算案は常任協議委員
会で承認された。

翌日行われる総会にて会員の承認を得る。

2. 年会費納入状況およびマニュアル売上げ報告

《平成15年度》

・新規入会・年会費納入状況について
入会金454,000円(入会施設44施設・準会員7名) 事業年会

費4,814,000円(263施設・準会員28名)

賛助会費170,000円の入金があった。

- ・年会費納入状況
平成14年度は1施設未納、平成15年度は3施設未納。
- ・マニュアル売上冊数

事務局で399冊、トオルで151冊、計550冊の売上があった。

- ・10年のあゆみ売上冊数
事務局で14冊の売上があった。

《平成16年4月以降》

- ・新規入会・年会費納入状況について

H16年4月より入会金174,000円(入会施設17施設・準会
員2名)

事業年会費4,580,000円(254施設・準会員22名) 賛助会
費330,000円の入金があった。

- ・年会費納入状況
平成15年度は2施設未納、平成16年度は35施設未納。
- ・マニュアル売上冊数

H16年4月より事務局で143冊の売上があった。

- ・10年のあゆみ売上冊数
H16年4月より事務局で31冊の売上があった。

- ・マニュアル残数

事務局に10冊、トオルに100冊、関西共同印刷所に213冊、
計323冊の残数。

3. 平成17年度からの年会費改定について

平成15年11月の常任協議委員会で決定
補助受託施設:25,000円(5,000円増)
補助未受託施設・未開設施設:12,000円(2,000円増)
準会員(個人会員):5,000円(2,000円増)
会則第14条・付則3)の改訂が必要。平成17年度予算案に
組み込む。

4. 新体制について

総務委員会新委員長・副委員長

藤本 保 委員長

青木佳之 委員

木野 稔 委員

宮田章子 委員

5. 事務局業務について

現在、入会案内送付は宮田章子氏、名簿作成を平田ルリ子氏
が行っている。今後は事務局が行う。

(5) 協議事項

1. 役員改選・常任協議員の定員

本年度は役員改選の年である。常任協議員の定員数について
も、会員に納得してもらえる説明をしなければならない。

【決定】

次期体制

会 長 藤本 保氏

副会長 青木佳之氏・木野 稔氏(次々期会長)・宮田章子氏

2. 常任協議員会開催回数・開催場所

常任協議員が増え、旅費など常任協議員会費が支出の中でも
大きな割合を占めている。そこで、常任協議員会を年何回、ど
こで開催するかを検討する必要がある。

【決定】

常任協議員会は研究大会開催時に1回と冬に東京で1回の計
2回開催する。

また、あり方検討委員会を適宜開催する。

委員会活動を活発にし、その報告・協議事項をあり方検討委
員会にもちよる。

3. 総会議長選出

総会会場で会員から立候補者がいなければ、青山学院大学庄
司順一氏を推薦する。

4. 社団法人日本女医会からのアンケート調査依頼(帆足英一氏
より)

「働く女性のための育児環境支援整備事業」という補助金事
業を日本女医会が受けるにあたって、関連する団体に協力をい
ただきたいということでアンケート調査依頼がきた。病児保育
協議会が行うアンケート調査とは視点が違うので、従来行って
きたアンケートとは内容が重複しないと思う。

5. 新・病児保育マニュアル改訂項目に関するアンケート調査 帆足英一氏より)
皆さんにご意見をいただき、広報委員会に協力してもらい、12月中には原稿が仕上がるようにする。
アンケートは再度事務局より郵送する。
6. その他
1) 第15回全国病児保育研究大会 青木佳之会頭より
日本旅行に企画書を出してもらった。2箇所の会場を使用することを考えている。初日は市民や行政など幅広い方の参加を考えた、子どもを取り巻く社会状況について考えていけるものにしたい。二日目は分科会などを行いたい。初日は2,000人規模、二日目は1,000人規模になると考えている。

以上

第14回全国病児保育協議会 総会 議事録

日時：平成16年7月18日(日)13:00～13:45

場所：ひまわりの郷

一、会長挨拶(藤本保会長より)

一、議長選出

会場より立候補者がおらず、常任協議員より庄司順一先生を推薦。

拍手で承認された。

一、議事

(1)平成十五年度事業報告

各委員会(総務・調査研究・研修・広報)の報告は宮田章子総務委員長が行った。

総務委員会

- ・平成15年7月4日(金) 総務委員会 (インターコンチネンタル東京ベイ)
- ・平成15年7月20日(日) 常任協議員会 (千里ライフサイエンスセンター)
- ・平成15年9月27日(日) 第1回あり方検討委員会 (東京国際フォーラム)
- ・平成15年11月23日(日) 常任協議員会 (八重洲ダイビル)
- ・平成16年2月22日(日) 常任協議員会 (大分総合文化センター)

調査研究委員会

(1)委員会開催

(1)平成15年7月19日(土) 第1回委員会

【議事】

「病(後)児保育室自己評価基準」調査結果報告

「病児保育事業稼働実績調査(入室状況)」の経過報告

その他

(2)調査

1)「病(後)児保育施設実態調査」の全国調査

実施期間 平成15年5月～6月

中間報告 平成15年7月

結果報告 平成16年7月

2)「疾病別利用期間調査」サンプリング調査

実施期間 平成15年5月

結果報告 平成16年7月

3)「平成14年度病児保育事業稼働実績調査」

実施期間 平成15年6月

結果報告 平成16年6月に、回答いただいた施設のみ集計結果を送付

研修委員会

- ・平成15年7月19日 研修委員会 大阪千里ライフサイエンスセンター
- ・平成15年7月20日、21日 第13回全国病児保育協議会総会・研修会 大阪千里ライフサイエンスセンター
- ・平成15年8月11日 全国病児保育協議会総会・研修会準備のまとめおよび反省点・留意点6ページ報告書提出
- ・平成15年9月14日(日) ヨコハマ大会打ち合わせ 新横浜プリンスホテル、ウイリング横浜、ひまわりの郷
- ・平成15年10月9日(木) 横浜市健康福祉総合センター ウイリング横浜の主体組織の横浜市社会福祉協議会担当者に挨拶と依頼、打ち合わせ

- ・平成15年10月18日(土) 横浜市内ホテル打ち合わせ
- ・平成16年3月13日(土)、14日(日) 研修委員会 三重県三重郡菟野町 研修委員会業務整理と新研修委員会への支援策について 広報委員会

4回のニュースの発行

第27号 平成15年6月25日

第28号 平成15年9月30日 総会・研修会特集号

第29号 平成15年10月25日

第30号 平成15年2月25日

ポスターの発行 36施設利用 A3サイズ926枚・A4サイズ480枚

ホームページの更新 月1回をめぐりに更新

広報委員会の開催 平成16年2月

ニュースの年5回発行が、原稿の到着遅れと編集作業の遅れで4回しか発行できなかった。16年度は必ず5回発行を遵守する。

各委員会からの事業報告について、拍手で承認された。

(2)平成十五年度決算報告(宮田章子総務委員長より)

平成15年度決算について 予算対比増減に対する説明

《収入の部》

事業年会費 1,314,000円増 加盟施設数の増加によるもの。
寄付 665,000円 10周年記念事業への寄付。10周年記念事業はすでに平成14年度決算により適正に処理されている。この寄付金は平成14年度決算後に入金されたもの。雑収入 1,092,290円増 「新・病児保育マニュアル」・「病児保育10年のあゆみ」・「全国病児保育協議会ポスター」の収入。
その他 286,075円増 すでに支出し、返金等があったものを「その他」の項目とした。

《支出の部》

研修会・総会運営費 483,843円増

483,843円増だが、これは「広告費600,000円」の収入により赤字にはならない。

記録委員会 200,000円減 記録委員会の活動がなかったため。

常任協議員会等会議費 928,128円増

常任協議員12名増加に伴う交通費・宿泊費の増額のため。

常任協議員会(研修会時を除く)1回開催に当たり、経費が約700,000円かかる。平成15年度は常任協議員会が単独で2回(東京・大分)、研修会時に1回(大阪)で開催されており、計1,828,128円の経費がかかった。

(常任協議員増員は平成15年7月に行われた第13回総会で決定)

旅費 494,000円増

協議会の今後を話し合う『協議会あり方検討委員会』を平成15年9月27日(土)に東京で開催。参加者は名誉会長・顧問・会長・副会長2名・各委員会委員長4名・常任協議員より2名・事務局1名の計12名。参加者の(事務局を除く)旅費が約500,000円かかった。

(『協議会あり方検討委員会』を設置することは平成15年7月常任協議員会で決定)

印刷費 1,995,755円増

1,300,000円が10周年記念誌「10年のあゆみ」印刷代。
695,755円はマニュアル増刷によるもの。

(10周年記念誌「10年のあゆみ」発行については平成13年5月に行われた第11回総会にて、帆足暁子前広報委員長より報告がなされている)

平成15年度決算報告について、拍手で承認された。

(3)監査報告(青木佳之監事より)

5月26日付けで中野博光監事が監査し、6月16日付けで私が監査いたしました。会計帳簿および関係書類を監査した結果、正確であることを認め、収入・支出および決算処理は適正に行われていることを証明いたします。

(4)平成十六年度事業計画

総務委員会(宮田章子委員長より)

- ・平成16年7月17日(土) 常任協議員会 (ウイリング 横浜)
- ・平成16年7月18日(日) 総務委員会 (ウイリング 横浜)

- ・平成16年10月または11月(予定) 協議会あり方検討委員会
- ・平成17年2月または3月(予定) 常任協議委員会調査研究委員会(平田ルリ子委員長より)
- (1) 調査
 - 1) 「平成15年度病児保育事業稼働実績調査」実施期間平成16年6月
 - 2) 研究事業
 - 1) 自己評価基準の取扱いについて
 - 2) 病(後)児保育室実態調査結果と考察
 - 3) 稼働実績調査の分析と検討
 - 研修委員会(二宮剛美委員長より)
 - ・平成16年6月20日(日) 研修委員会 名古屋市
 - ・平成16年7月17日(土) 研修委員会 ウイリング横浜
 - ・平成16年7月18日(日)、19日(月) 第14回全国病児保育研究大会 横浜市
 - ・平成16年9月23日(祭) 研修委員会
 - ・平成16年10月頃 岡山研究大会会場視察
 - ・平成16年11月 研修委員会
 - ・平成17年3月 研修委員会
 - 広報委員会(藤本文孝委員長より)
- 年5回のニュースの発行(内1回は総会・研修会特集号)6月、8月、9月、12月、3月の5回
- 病児保育ポスター(リニューアル版)の作成=作成済みHPの拡充
- ・「病児保育とは」を作成
- ・「入会のご案内」の掲載 「入会のしおり」を使用
- ・関連の学会の情報・各ブロックや都道府県段階での取組の紹介
- ・メールマガジンの発行を模索
- 平成16年度事業報告について、拍手で承認された。

(5) 平成十六年度予算案

《収入の部》

研修会参加費・広告

今年度より研修会(名称を"研究大会"に変更)の実行に関しては、「研究大会実行委員会」に一任することを決定した(平成15年11月常任協議委員会にて決定)。これは、研究大会の収支についても同様である。したがって、研修会参加費・広告については、協議会本体の収入項目からは除外することになる。

《支出の部》

研究大会補助金

上記の理由により、今年度より研究大会に対する協議会からの補助は1,000,000円となる。

平成16年度予算(案)について、拍手で承認された。

(6) 役員改選について

会場より役員への立候補者がいなかったため、常任協議委員会からの役員案を示した。

《平成16年・17年度役員体制案》(五十音順・敬称略)

会 長

藤本 保(大分県:大分こども病院キッズケアールーム)

副 会 長

青木佳之(岡山県:青木内科小児科医院内山陽ちびっこ療育園)

木野 稔(大阪府:中野こども病院病児保育室きしゃぼっぽ)

宮田 章子(東京都:みやた小児科ぼけっと病児保育室)

顧 問

中野博光(大阪府:中野こども病院病児保育室きしゃぼっぽ)

帆足英一(東京都:ほあし子どものこころクリニック)

監 事

井崎和夫(神奈川県:社会福祉法人あおぞらあおぞら病後児保育室さくらんぼ)

向田隆通(愛媛県:むかいだ小児科キッズハウス)

常任協議員

- 青木佳之(岡山県:青木内科小児科医院内山陽ちびっこ療育園)
- 池田奈緒子(神奈川県:エンゼル多摩)
- 木野 稔(大阪府:中野こども病院病児保育室きしゃぼっぽ)
- 高崎好生(福岡県:高崎小児科内福岡市西部病児デイケアールームおもちゃばこ)
- 二宮剛美(三重県:二宮病院四日市市病児保育室カンガルーム)
- 野澤良美(東京都:狛江すこやか病児保育室)
- 日高伸一(宮城県:ひよこ保育園)
- 平田ルリ子(福岡県:清心乳児園子育て支援センターキッズランド)
- 深谷憲一(福井県:ひかり病児保育園)
- 福富 悌(岐阜県:福富医院)
- 藤本 保(大分県:大分こども病院キッズケアールーム)
- 前田敏子(愛知県:コスモスこどもクリニックなずな病児保育室)
- 増田 宏(広島県:ますだ小児科内病児保育室バンビ)
- 松本良文(京都府:宇治病院乳幼児健康支援サービスセンター)
- 南 武嗣(鹿児島県:みなみクリニック病児保育室ダーク・ヘム)
- 宮田 章子(東京都:みやた小児科ぼけっと病児保育室)
- 山田 静子(東京都:ききょう保育園病後児保育室ひまわり)
- 委嘱協議員・委嘱常任協議員
- 赤平幸子(青森県:城東こどもクリニック病児保育室ことりの森)
- 小田文江(大阪府:すみれ乳児院すみれこどもケアルーム)
- 庄司順一(東京都:青山学院大学文学部教育学科)
- 野原八千代(千葉県:聖徳大学短期大学部保育科)
- 藤本文孝(大阪府:株式会社関西共同印刷所)
- 帆足暁子(東京都:ほあし子どものこころクリニック)
- 各委員会委員長
- 総務委員長
- 藤本 保(大分県:大分こども病院キッズケアールーム)
- 調査研究委員長
- 深谷憲一(福井県:ひかり病児保育園)
- 研修委員長
- 木野 稔(大阪府:中野こども病院病児保育室きしゃぼっぽ)
- 広報委員長
- 藤本文孝(大阪府:株式会社関西共同印刷所)
- 名誉会長 保坂 智子(大阪府:枚方病児保育室)
- 平成16年度・17年度役員体制について、拍手で承認された。

(7) 年会費改定について

加盟施設増にともなう事務局体制強化、研究大会補助金額の検討、委員会費の検討など今後の協議会収入を考え協議した結果、H17年度より以下のように年会費改定を提案した。補助受託施設は現在約200施設あるので、約100万円の収入増が見込める。

「年会費改定」平成17年度から年会費を以下のように改定する。

補助受託施設:25,000円(5,000円増)

補助未受託施設・未開設施設:12,000円(2,000円増)

準会員(個人会員):5,000円(2,000円増)

会則第14条、付則3)を改訂する。

また、『付則12』本会則を一部変更し、平成17年4月1日より施行する』を追加する。

年会費改定について、拍手で承認された。

(8) その他(藤本保会長より)

厚生労働省に補助金増額を陳情するにあたり、現状に基づいたデータが必要である。各施設に調査をお願いすると思うので、ご協力のほどよろしくお願いたします。

一、閉会挨拶(藤本保会長より)

以上

全国病児保育協議会事務局

〒870-0943 大分県大分市大字片島83-7 大分こども病院気付

電話:097-567-0050(代表) FAX:097-568-2970

担当:伊東 美紀